

母の話を聞いて

青垣中学校 二年 田野 陽葵

「韓国人っていいなあ。」
と思うのは私だけでしょうか。

世界中でK-POPブームが巻き起こり、韓国風ファッションやメイクのような、韓国文化に憧れる人が続出しています。チャンスがあれば韓国へ行ってみたいし、少なくとも私は韓国という国に対して、嫌なイメージは全くありません。ですが、同じ家族でも、母は考え方が違うということを知りました。

私の祖母は在日韓国人で、母はハーフです。その事実を母から聞くまで知りませんでした。なぜなら、周りの日本人と同じように生活しているし、日本語を話すし、祖父母の家が大阪にあるからです。もちろん名前も日本名です。

「なんで韓国人なん？日本におるやん。」

「ひいおじいちゃん、ひいおばあちゃんが強制的に日本に連れてこられたからやで。」私は驚きました。強制って一体何？本当の家は韓国なの？なんで帰れなかったんだろう。と、当時はたくさんの疑問が浮かびました。その中で一番不思議だったことが名前です。

「お母さんの名前は？」

と私が母に聞くと、母は

「韓国の名前だと差別されるから、おばあちゃんが日本国籍の日本名にしたんやで。」と言いました。名前で差別されるの!?!ハリウッドの有名な俳優さんは英語の名前で差別されていないのに!?!と小学生だった私はあまり理解できませんでした。そして、少しずつ韓国に対して別のイメージを持っている人がいることを知りました。

祖母は、学生時代につらい差別にあっていました。成績で1位をとっても表彰されなかったり、卒業式で名前を呼ばれなかったりと学校生活でも差別があったそうです。その差別は就職や結婚の際に多かったそうです。この経験から、自分の子が同じような思いをしないようにと、日本国籍を選んだとのことでした。母が父と結婚するときに、祖母はとても不安で心配したそうです。母も友人の家へ遊びに行ったとき、母だけ家に入れてもらえず、泣きながら帰った経験があるそうです。その話を聞いただけで、胸が苦しくなりました。国が違うということ以外、違いはないし日本人が偉いという決まりもありません。そして、日本は自分の名前や国籍を隠さなければ生きづらい国なんだと知り、とても悲しくなりました。人権が尊重されないとは、こういうことなんだと実感しました。

日韓関係の悪化のニュースが話題になると母はいつも

「お母ちゃんが韓国人のハーフで嫌な思いしてないか？」

と心配そうに尋ねます。日韓関係が話題になったり、事件の加害者が在日韓国人だったりすると、SNSではネガティブな発言であふれ、私も何か言われていないかと恐くなるそうです。私は幸せなことに友人から差別的な発言を受けたこともありません。母の話を聞いてから日韓関係の背景を理解せず、韓国のK-POPのような明るいイメージの部分しか知らずに憧れを持つことが、祖母や母を複雑な気持ちにさせているのかもしれないと考えるようになりました。そして、日韓関係の背景や歴史を正しく理解するということが大切だと気づきました。正しく理解した上で、お互いの人権を尊重できる大人になりたいです。

韓国に対して明るいイメージを持つ私たち世代が、そのスタートをきりたいと思います。